

絵本「しっぽがわらう」の贈呈に寄せて

伊藤 順子（愛知県岩倉市）

エンピツ描きで、毛一本一本まで丁寧に仕上げてもらっているので、原画はもっと迫力があるんですよ！印刷では、このエンピツの色やタッチを出すために、紙やインク（ナチュラルな墨色）、それぞれの動物のカット具合（ゾウさんの頭は、わざと少しカットしてます）、ブックデザイナーさんの全体調節など、絵本に仕上がるまで、ほんとうに大変な作業でした。

絵本が出来上がってから、現代画家の山田彊一先生に見ていただいたら、（山田先生には、作成段階でアドバイスをいただいています。単に動物の正面としっぽだけでは面白くないから何かくっつけなさい！と！）”よくできているね！”とお言葉をいただきました。

これは、私作ですが、オリジナルな発想ではないんです。20年も前に、画用紙に描いた一枚の幼い子の絵を見たんです。画用紙の表は、ゾウさんの大きな顔と耳と、長い鼻と、可愛い目を真正面から、裏には、チョロンと可愛いしっぽだけ。

その絵に、とっても感動しました。胴体は、その子の想像力の中にあるんですから！！

その絵のことがあって、構想はずっとあたためてきて、画家を見つけてからも、描きなおし描きなおして2年もかかって仕上げてもらいました。画家の杉藤さんは、台湾の素描ビエンナーレで最年少入賞をされていますが、この作品にあたっては、東山動物園でアルバイトをしながらそれぞれの動物をじっくり観察して絵本用に描き上げてくれました。

それぞれの動物には連続性はありません。それぞれが独立しているので、一つの作品としても観ていただけます。

子どもたちに本物を届けたい。そんな思いもあります。幼いころに本物に触れること、それは、「真実をみる目を」養なうことだと私は信じています。

この作品は、イタリア・ボローニャ国際絵本原画展にも応募しました。
(イタリアはサッカー王国なので、
山田先生から何かくっつけなさいとアドバイスをいただいたときに、
トラにサッカーボールを当ててゴールさせたところから
この絵本ははじまりました)

エスペラント語との対訳については、
中表紙のエスペラントの紹介にもあるように、
「この本が日本人の間だけでなく世界の人々の間で読まれ、
その笑いが平和につながっていくようにと祈っているからです」
この紹介文に時間をかけました。
堀さんと夫には、エスペラント翻訳では大変お世話になりました。

7月28日からリスボンで開催された
第103回世界エスペラント大会に出席して
絵本の紹介もさせていただきました。
持参した20冊中、手元に残した3冊以外は
世界エスペラント協会の書籍部が全部買い取ってくれました。
これらも、堀さんにお世話になりました。

余談ですが、
(今夏、世界エスペラント大会に世界中から 1500
人以上が集まりました。日本を代表して日本エス
ペラント協会理事の夫が挨拶をしました。

16世紀にポルトガルの船が日本に到着て、そ
れが、日本人にとってヨーロッパ、そして世界との
最初の出会い。そのポルトガルで開かれる大会
が成功することを祈ります・・・というような挨拶を
述べました。)



伊藤 順子
〒482-0005 愛知県岩倉市本町下市場 89 (jxunko.itou@gmail.com)

※ 写真について…左から伊藤順子さん、伊藤俊彦さん(夫)、堀 泰雄さん

3月13日、唐丹中学校卒業式にご夫婦で参列し、「卒業式の感想」を投稿いただきました。
HP-唐丹希望基金活動報告:EEC 通信 93号に掲載公開。

<http://eec-2020.com/tushin/eec/93tushin.pdf>